

第5回教育振興基本計画策定委員会 概要

日 時	平成31年3月1日（金）午後1時30分 ～ 午後3時40分
場 所	教育委員会会議室
出席者	委員 9人（1人欠席） 事務局 教育長、教育部長、総務部長、理事兼企画政策部長、こども希望部長 文化振興課長、スポーツ振興課長、こども希望課長、学務課長、 学校教育課長、市民協働部政策室長、こども希望課指導主事 社会教育課社会教育係長、図書館長、教育部長 教育政策室長、教育政策室係長、教育政策室指導主事、教育政策室主任
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 第4回策定委員会の内容について</p> <p>(2) パブリックコメントの結果について</p> <p>(3) 総合教育会議、議会全員協議会、議会文教厚生委員会協議会での意見について</p> <p>※事務局から説明</p> <p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(資料 第2期掛川市教育振興基本計画に対しての要望や修正等に関する主な意見について)文言レベルで恐縮だが、42番のアンダーラインが引かれた部分の「市民と対話」については、「市民との対話」とするのがよいのではないか。 ・(資料 第2期掛川市教育振興基本計画に対しての要望や修正等に関する主な意見について)このペーパーの扱いだが、策定委員会の議事録についてはホームページ上で公開されているが、この資料についても公開されるのか。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・策定委員会の資料として公開していきたい。 <p>3 議事</p> <p>第2期掛川市教育振興基本計画(案)について</p> <p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終回なので、内容だけではなく、細かな文言の書き方も含めて、最終的にどのような文面にしていくのか。漢字で書くのか平仮名で書くのかというテクニカルな部分もあるかと思う。3時20分までを予定しているが、協議の最後に委員の皆さんから一言ずつ頂戴したいと思う。それから、本日意見がたくさん出ると思うが、最終的には、事務局と委員長とで調整をしたいと思うが、それでよろしいかをお諮りしたい。 －「それでよろしい」との声有り。－ <p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、そのように進めさせていただく。 ・順を追って見ていきたい。 ・表紙を御覧になってお気づきの点があるか。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人づくり構想の右側のカギ括弧がない。 <p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空欄になっている月の部分には何月が入る予定か。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月が入る。 <p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つづいて目次の部分はいかがか。 ・目次の部分で修正したポイント等があるか。 	

【事務局】

- ・アンダーラインを引いていないが、第2部第1章を「教育への取組」から「教育の取組」に修正した。

【委員長】

- ・細かなところで恐縮であるが、第1部の「第2期教育振興基本計画」はカギ括弧で閉じた方がよいのではないか。固有名詞なのでカギ括弧を付けた方がよい。固有名詞のところはカギ括弧をつけるということで統一していただきたい。
- ・改めて見てみると、第3部第4章の「5 文化の振興」と「6 スポーツの振興」については、ちょっと修飾語があるとよいのではないかと思った。

【事務局】

- ・文化の振興、スポーツの振興については前後に比べると修飾語が少ないので、事務局で検討させていただく。

【委員長】

- ・続いて、第1部の1ページから3ページについてお願いしたい。

【委員】

- ・1つ目の柱が第2期教育振興基本計画となっていて、2つ目の柱が第2期計画となっている。略称については2ページの始めに書かれているため、略称の記述を1ページの最後の文章に持ってくる方がきれいではないか。

【委員長】

- ・御指摘のような細かなところまで神経を行き届かせないといけない。
- ・1ページの下余白部分はひじょうに上手に活用された。
- ・次に第2部総論の第1章、4ページから7ページについてお願いしたい。

【委員】

- ・6ページの第1期計画と成果と課題のところの「1 掛川市の特色ある取組」のところで、15年間を見通した教育とあるが、15年の意味が教育関係者以外の人には何のことか分かりにくいのではないか。後ろの38ページには15年間の説明が出てくるが、この部分でも説明が必要ではないか。

【事務局】

- ・15年間の後に説明として、38ページと同じように書かせていただく。

【委員長】

- ・「2 乳幼児教育」の2段落目の「視野の広がるの等の効果」は等の前の「の」が必要ではないか。
- ・悩ましい問題であるが、「等」を漢字にするのか、平仮名にするのか。この点について事務局はどう考えているのか。

【事務局】

- ・文書の中には反映できていないが、動詞の後ろの「等」については平仮名、名詞の後ろの「等」については漢字にしたいと考えている。

【委員長】

- ・ここでは「広がるなど」と平仮名になる。
- ・「2 乳幼児教育」の1行目の「95%を超えて」の超え、2段落の1行目に「形態を越えた」の越えの使い分けの基準は。

【事務局】

- ・「超え」は数字や目標を上を超えるイメージ、「越え」は組織や山等の横に広がるものを越えるイメージという基準で使い分けていきたい。

【委員長】

- ・7ページはよろしいか。
- ・つづいて「第2章 教育を取り巻く社会の状況」、8ページからとなる。

【委員】

- ・7ページの「4 社会教育」の中にある「和・学・愛・楽」の用語解説はあるか。

【事務局】

- ・78ページに記載されている。

【委員長】

- ・『かけがわ家庭教育「和・学・愛・楽」』として記載されている。私もまったく同じ疑問を感じた。ずっと用語解説を見たらここにあった。なかなか気がつかないかもしれ

ない。

【委員】

- ・ 8 ページの下のグラフで、タイトルの「掛川市の人口の推移」とグラフ下の「掛川市の人口推移グラフ」は似たような感じだし、どちらか一つでよいのではないか。グラフの下の明朝の文字は引用の意味合いであるのなら、文字が大きすぎるのではないか。

【事務局】

- ・ 御指摘のとおり修正させていただく。

【委員長】

- ・ 引用資料は大きな活字で表記している。分かりやすいというよさはある。

【委員】

- ・ 10 ページで「子ども」と「子どもたち」という表記があるが、使い方の基準があるのか。

【委員】

- ・ 10 ページを見ると「等」という活字が多すぎる気がする。使い勝手がよくて使っているような気がする。本来の使い方ではないのではないか。

【委員長】

- ・ 行政文は「等」を使いたがるきらいがある。

【事務局】

- ・ 「など」「等」については、もう一度精査させていただく。必要な部分については使用させていただくが、削れるところは削らせていただく。

【委員長】

- ・ 「子ども」と「子どもたち」については「子ども」に統一したらどうか。全体をもう一度見ていきたいと思う。

【委員】

- ・ 「子ども」と言うと上から目線的な感じがする。「子どもたち」とした方が柔らかい感じがするのではないか。

【委員】

- ・ 行政文書では「たち」はあまり使わない。行政文書と割り切れれば「子ども」でよいのではないか。

【事務局】

- ・ 市の総合計画ではすべて「子ども」で統一しているので、それに統一させていただく。

【副委員長】

- ・ 12 ページの 2 行目の「食習慣の乱れ等の多様化する検討課題」とあるが、多様化するとあるのに食習慣の乱れだけでよいのか。食習慣の乱れや〇〇と言うように 2 つくらいないと、多様化という言葉と結びつかないのではないか。

【委員長】

- ・ 刊行する時はカラーにするのか。

【事務局】

- ・ 本日の資料は、委員の皆さんにはカラーのものを、事務局は白黒のものを用意させていただいた。全部をカラーで配布することは費用もかかるので白黒版での配布を考えている。ホームページに掲載するデータについてはカラーのものを掲載する予定である。

【委員長】

- ・ 14 ページの帯グラフはカラーになるとひじょうに見やすくなるが、白黒でも違いが分かるので問題ない。
- ・ 次に「第 3 章 掛川市における教育の主要課題」に入る。
- ・ 「第 4 章 『人づくり構想かけがわ』の基本目標・基本方針」についてお願いしたい。

【委員】

- ・ 写真等のキャプションについて、本文の文字と写真の説明文の文字の大きさがほぼ一緒で見にくいのではないか。少し小さくした方がよいのではないか。
- ・ 用語の解説がある文字については*がついているが、用語解説があるということをご

ここに表記した方がよいのではないか。

【事務局】

- ・ 1 ページの 1 行目の上に、用語解説があることを記載している。もう少し分かりやすくしたい。

【委員】

- ・ 16ページの(1)の12行目「学校図書館の利活用及びICT機器の拡充等」の文章が、AやB、C及びD等という文章体になっており、表現としておかしいのではないか。つながりがよく分からない。内容としてはよいと思うので、整理していただきたい。

【委員長】

- ・ いろいろな要素が含まれているので、表記が複雑になっている。
- ・ 20ページの基本目標のところに、前回の目標から今回の目標への移り変わりを白抜きの文字で「『凜』から未来の『創造』へ」と示したが、これはどういう意図か。

【事務局】

- ・ 前回の基本目標、ひとことで言えば「凜」から、今回の基本目標「創造」へ、「凜」を基にしながら広がっていく、「凜」という静的なイメージから、「創造」の動的な、チャレンジすると言ったところへの発展ということで、「凜」から「創造」へという言葉を入れた。

【委員長】

- ・ 第1期計画の基本目標は「夢実現に向かう心豊かで凜とした市民の育成」だったので、心のたたずまいのような理念、目標だった。今度はそう言ったものを踏まえながらもかなり動き回るという意味が込められている。第1期から第2期への変化がこの部分で鮮明になる。

【事務局】

- ・ いろいろなところで人生100年時代と言われる中で、静から動の目標へ、チャレンジとか前へ向かっていく、動的な表現に変えていく。

【委員長】

- ・ ここは、今回の計画の大きなポイントである。

【委員】

- ・ 「凜」から未来の「創造」の部分が簡潔すぎるのではないか。

【委員】

- ・ この文言は、静的から動的、静止状態から動きますというイメージに捉えられる。静止状態から、動きます、創造します、というアプローチに移ったととれる。文言としては、下の基本目標がメインであることには間違いはないが、動きますという意味を表現しているともとれるので、よい表現ではないかと個人的には思う。

【委員】

- ・ いま説明していただいたようなことがすぐに分かるような表現がよいのではないか。

【委員】

- ・ 家で子どもたちにこの部分の話しをした時に、長男が小学校1年生だった時に第1期計画の目標ができた。息子も覚えていて、凜から未来の創造に変わるということについて、いいねと言っていた。分かりやすい表現でよいのではないかと思った。

【委員長】

- ・ 下に2行丁寧な説明もあるし、動きもあってひじょうによい表現ではないかと思う。

【副委員長】

- ・ これからの基本目標は下の2行の部分。色がついて目立たなくてはいけないのは下の部分ではないのか。下に色を付けた方がよいのではないか。

【委員】

- ・ 白黒印刷だと下の部分の方が目立つ。

【委員】

- ・1期計画は「市民の育成」、今回は「創造するひと」、「創造するひとの育成」ではないのはなぜか。

【事務局】

- ・この基本計画の上位計画に「教育大綱かけがわ」がある。教育大綱では、目指す姿が「ひと」で終わっているということが一点、「育成」にすると上からなイメージになってしまう。支えていくというイメージの中で「ひと」にさせていただいた。

【委員長】

- ・副委員長からの御指摘の点については、白黒の場合にはそんなに問題にならない、ということではよろしいか。

【事務局】

- ・『『凜』から未来の『創造』へ』は、あくまでもサブタイトルであり、メインはその下の2行であるので、その部分がメインであることが分かるような表現にしたい。

【委員長】

- ・次に「第6章 施策の体系」に移りたい。この部分で変更した点はあるか。

【事務局】

- ・ライフステージの区分について、パブリックコメントでいただいた意見を本に、以前は縦に区分けをしていたものを、社会教育が乳幼児期にも入るようにした。曲線的な図形を入れた方がよいのではないかと、との御意見をいただいたので、曲線的に広がっていくような形で作った。
- ・概要版の資料について、社会教育に関して乳幼児期から社会教育も関わっていくべきとの考えから、社会教育を下に持ってきた。
- ・同様に23ページの表の中でも社会教育の部分を左右に長くした。

【委員】

- ・23ページの基本目標部分の文字の大きさと、20ページの基本目標の文字の大きさが違う。統一した方がよいのではないかと。
- ・22ページ、23ページの各分野の基本目標がゴシックの太文字になっているが、全体を通じてこのようになっているのか。

【事務局】

- ・施策の体系のそれぞれの分野の目標につながっているため、強調する意味でゴシックにしている。

【委員】

- ・体裁というか、バランスがよくないのではないかと。計画全体の中で統一がとれない感じがする。目立ちすぎてしまうのではないかと。

【委員長】

- ・この後にも出てくる文章でもあるので、強調するという点でこのままでよいのではないかと。
- ・23ページの体系図で社会教育の示し方が難しいと思う。斜めになっている表し方は正確だと思う。社会教育と図書館がまったく同じ形なので、図書館と社会教育の違いが見えなくなってしまう。図書館を通して位置付けているという掛川市の教育振興基本計画の価値がちょっと薄くなってしまふ。社会教育をワイドにせず、乳幼児教育や学校教育と同じくらいの大きさにして、少しずつ右側に位置付けるのがよいのではないかと。

【委員】

- ・今、まさに委員長がおっしゃったように、乳幼児教育、学校教育と同じ並びで社会教育を位置付けたらよいのではないかと。青年期が社会教育で、より大きなウエイトを占めているというイメージをなだらかな曲線で表している。23ページのニュアンスが概要版でも伝わるとよいのではないかと。

【委員長】

- ・23ページの体系図について社会教育の示し方を事務局案のようなワイドな形ではなく、もう少しコンパクトな形にしたらどうかと思うがいかがか。

【事務局】

- ・23ページの体系図では、乳幼児期から青年期にかけてなだらかな青色のエリアが広がっている。その部分を表しているタイトル付けとして「社会教育」という文言が入ればよいと思っているので、長さはコンパクトにしてもよいのではないか。

【副委員長】

- ・家庭教育支援は子どもが生まれた時から始まっているということで、家庭教育と社会教育は教育基本法が改正されて別物にはなったが、掛川では家庭教育力の向上は社会教育の中に含まれているので、そこは特色として、学校教育が終わって青年期に入ってからが社会教育ということではなく、社会教育の中に家庭教育が含まれているということに配慮していただいたのではないかと思う。その配慮についてはとてもありがたいと思った。

【委員長】

- ・「第3部 各論」に移りたいと思う。

【委員】

- ・26ページの3のア「地域づくり人材の育成」とあるが「地域づくりの人材育成」の方がよいのではないか。

【委員長】

- ・「第1章 市民総ぐるみの教育」の部分はいかがか。

【委員】

- ・目標の文章が長すぎるのではないか。

【事務局】

- ・句点を入れたいと思う。

【委員】

- ・「子どもたちの教育にあたる」は「子どもの教育にあたる」に変更するのか。

【委員】

- ・「子どもたちの教育」「市民総ぐるみの教育」と教育が2つ出てくる。文が長すぎるから読みにくいのではないか。
- ・「子どもたちの教育」はいらないのではないか。

【委員長】

- ・時間も経過しているので、私と事務局で検討したい。
- ・「第2章 乳幼児教育」に移りたい。

【事務局】

- ・文言を検討して変えさせていただきたい部分がある。評価指標について、31ページの（2）園の評価指標についてはこれまで公立園を中心に評価を行ってきたが、今後は市全体の乳幼児施設を見て指標を上げていきたいと考えている。私立園でアンケートをとっているのが7園あるので、それも含めて指標を表していきたい。そうすると今年度の現状値が65.5%とあるのが64.2%に変わる。目標値についてもまずは、70%を目指していきたい。

33ページの評価指標についても、掛川市乳幼児教育施設未来学会の会員数の割合としていたが、もっと分かりやすくするには、会員数がよいのではないかということで、現状値が676人、目標値を750人に変えさせていただければより分かりやすいのではないかと思う。

【委員】

- ・公立だけではなく、掛川市全体でという捉え方はよいのではないかと思う。

【委員】

- ・目標値の数字を設定する根拠、必然性はあるのか。

【事務局】

- ・31ページの目標については、保護者アンケートをとって、園運営に満足している保護者の割合、「そう思う」「ややそう思う」の2つの合計の90何パーセントが現状値となっていた。現状値、目標値が高すぎるとい御指摘をいただいたので、「そう思う」のみを対象としたのでパーセンテージが下がった。今までは公立園だけだったので、私立園も含めての形として、この数字となった。

【委員長】

- ・「第3章 学校教育」にいきたい。ここは分量も多いところなので、いろいろ御意見をいただきたい。

【委員】

- ・39ページの(3)施策の内容のアの部分、学校図書館の活用の促進という表現が、活用という言葉自体に積極的な利用という意味合いがあると思われるので、利活用の促進くらいにとどめるのがよいのではないか。
- ・同じ文章の前半と後半の文章の組み立てが異なるので読みにくい。事務局で修正をお願いしたい。

【委員】

- ・40ページの上から4行目、「『掛川市情報化推進基本計画』の推進」の部分について語句の説明が必要ではないか。

【事務局】

- ・パブリックコメントの中でこの計画を推進した方がよいという御意見をいただいたので、この文言を追加した。語句の説明を追加したい。

【副委員長】

- ・40ページの「エ 外国語教育の充実」の下から2行目「学びの連続性大切にし」の部分、「を」が抜けている。

【委員】

- ・41ページの「カ 外国人児童生徒等への指導の充実」のところで、今後の施策として日本語初期指導教室と支援員の派遣についてどう考えているのか教えていただきたい。

【事務局】

- ・日本語初期指導教室については、国からの予算的な部分もありなかなか自由に増やすことができない。国のつけた補助金にマッチした金額でやらざるを得ないという現状がある。
学校に配置している支援員を増やしたいという気持ちももちろんあるが、こちらは人材の確保が難しい。ひじょうにもどかしい思いをしながらやれる範囲で拡充をしたいと思っているのが現状である。

【委員】

- ・42ページの上から6行目、「学校での体験学習の場をの充実」の部分の「を」がいない。

【委員長】

- ・「第4章 社会教育」をお願いしたい。
- ・文化の振興、スポーツの振興の部分はこれから御検討いただくということか。

【事務局】

- ・スポーツについては「だれもがスポーツを楽しめる環境の整備」としたい。
- ・文化については「市民の文化芸術活動の推進」としたい。

【委員長】

- ・「第5章 図書館」に移りたい。
- ・68ページの主要施策評価指標の部分はいかがか。
- ・学校給食における地産地消の割合の目標が現状値にとそんなに大きな違いがないが、

こういった事情があるのか。

【事務局】

- ・現状値の51.1%もかなり努力をしている数値である。市内にも農家は多いが、給食で使うだけの種類の野菜を、1万人分となると市内だけで確保するのはかなり難しい。子どもにいろいろな献立を提供したいということもあり、52%という数字もかなり難しい数値ではないかと考えている。

【委員】

- ・学校教育の評価指標の学力・学習状況調査の正当率を上回った割合が、現状値が96%で、目標値が90%以上となっている。他の指標はすべて現状値を上回る目標値となっているがなぜか。

【事務局】

- ・全国平均がどんどん上がっていく中で、幅が狭くなった中に密集している状態となっている。ほんのちょっとした数値の移動で上回ったり、下回ったりしてしまう。9割を超えていればかなりよく頑張ったと言えるのではないかと、ということで設定している。

【委員】

- ・学校現場から言わせていただくと、上へ上へということで設定されてしまうと、現場はどんどん疲弊してしまう。維持することの大切さという観点で捉えていただきたい。

【委員長】

- ・用語解説の部分、解説を加えた方がよいという御意見もあったので、対応をお願いしたい。
- ・用語解説の部分はいかがか。

【委員】

- ・「、」と「・」の使い分けはどのように行っているのか。

【事務局】

- ・並列している場合は、「A・B」、「、」で切った方が読みやすいところは「、」を使っている。統一した使い方となるように、もう一度見直す。

【委員長】

- ・「・」は日本語には馴染まない。使い分けは難しいが、事務局で御検討いただきたい。

【委員】

- ・76ページのいじめ防止対策推進法の用語解説が「掛川市では」で終わっている。

【委員長】

- ・本日の検討委員会が最後となるので、委員の皆さんから一言ずついただきたい。

【委員】

- ・第1期の計画を読んで愕然とした。抽象的な言葉と曖昧な結び方が多かった。第2期については、優しい表現にとどめて、踏み込んだ表現になっている。すごい差がある。ものすごく成長していると思う。教育については評価基準がすごく難しい。掛川はいいところだと言う人は多いが、就業者が少ないのが悩みの種となっている。なんとか踏みとどまっていきたい。長期の戦略につなげていって、お互い活躍をしていきたいと常々思っている。

【委員】

- ・本当によくやっていただいた。何度も何度も作り直していただいて送っていただいて、細かいことをやっていただいた。これから小学校に入る孫がいる。この人づくり構想で育っていくことになると思うので楽しみにしている。

【委員】

- ・学校、市の施策、社会教育いろいろなことを勉強させていただいた。直接、子どもたちや保護者と関わる立場から、いったいどんなことをしたらいいのか作りながらずっと考えていた。そこのパイプ役を務めることが大事なんだと感じた。

【委員】

- ・地域コーディネーターが集まるとだいたい話題になるのが、何年やった、後何年やる、次の人決まった、誰かいるという話しになって、次の人につなげるのが課題となっている。今回の計画の中に、地域コーディネーターの後継者の育成を入れていただいたことがすごくうれしかった。
親としても高校1年生の息子がいるが、親として勉強していくことが大事だと思った。若いお母さんたちにもこういうのを読むといいよと勧めたいと思う。

【委員】

- ・2期計画の作成に携わらせていただいて勉強になった。校長会を代表して意見が言えたのか不安になる部分もある。事務局がレスポンスよく対応していただき感謝している。これを基に今後、学校現場で頑張っていきたいと思う。

【委員】

- ・難しい言葉が多くて覚えるのがたいへんだったが、教育についてよく分かりたいへん勉強になった。

【副委員長】

- ・掛川市の未来に向かってわくわくするというか、凜から未来の創造へということで、ともに学びという言葉もあって、市民総ぐるみと言っているが、掛川市の教育を進めながら、掛川市が住みよいまちであるように進んでいくといいなと心から思う。皆さんと出会えて関わらせていただいてありがたかった。事務局の皆さんも丁寧にやっていただいたし、委員長もたいへん適確な御指導をしていただきありがたかった。この後、もしものことがあった時には委員長と事務局だけが責任を負うのではなく、メンバーみんながしゅんと反省する。

【委員長】

- ・委員会の第1回目の時に3点申し上げた。
1つは、第1期の計画の成果と課題を踏まえながら次の計画の方向性を見据えて、また新しく必要な施策を考えていく。この1点目については、各分野に第2期ならではのものが適切に盛り込まれていいなと思った。
2点目は、教育計画はどの市町においても基本的に大きな違いを描けないところがある。そういった中で掛川市の独自性を第2期計画で出せるのかということになる。ひとつよかったなと思うのは、基本目標のところ「ともに学び」という文言において生涯学習の伝統を十分に踏まえながら、協働という市の総合計画でも大事にしているキーワードを取り込んで、そこに掛川市教育の2期の計画の新しさを十分盛り込めたのではないかなと思う。
3点目は、市民の考えをどのように反映していくか、パブリックコメント等でたくさんの御意見をいただき丁寧に対応していただいたことがよく分かった。一般市民の代表である市議会議員の皆さんが、文教厚生委員会協議会において市民の代表の立場から御意見をいただき、それに対しても丁寧にしていただいた。また、総合教育会議でも、市長、教育委員の皆さんの協議の中での御意見、これについても丁寧に対応している。いろいろな人の御意見を結集して取りまとめができた。3点目についてもよかったと思う。
この先、この計画が円滑に進んでいくことを祈っている。
- ・事務局に進行をお返しする。

教育長からお礼の挨拶

- 4 今後のスケジュールについて
- 5 閉会

